

## 12. 皮膚および皮下組織の疾患 (L208)

### 文献

Sakaino M, Itoi M, Egawa M. Effect of electroacupuncture treatment for itching and skin condition of patients with atopic dermatitis; a randomized controlled trial. *日本未病システム学会誌* 2017; 23(1): 1-11. 医中誌 Web ID: 2017234484

### 1. 目的

アトピー性皮膚炎 (AD) 患者の掻痒感および角層の機能・形態に対する鍼通電治療の効果を評価。

### 2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

### 3. セッティング

明治国際医療大学、京都、日本

### 4. 参加者

アトピー性皮膚炎と診断され、過去 6 か月以上掻痒感を有している 20~65 歳の患者 20 名。

### 5. 介入

Arm 1: 鍼通電群 (西洋医学的標準治療に週 1 回 5 週間、計 5 回の鍼通電を追加) 40 mm 20 号ステンレス鍼で曲池、手三里、足三里、上巨虚に 100 Hz・15 分。

Arm 2: 対照群 (西洋医学的標準治療のみ)

### 6. 主な評価項目

主観的評価として掻痒感 (直近 1 週間の平均的な強さを visual analog scale (VAS) で)、QOL (日本語版 Skindex-16)、皮膚炎の重症度 (PO-SCORAD)。客観的評価として経表皮水分蒸散量、角層水分量、角層細胞面積、角層細胞内の表皮角層 TARC の画像解析。治療開始前と 5 週間の治療期間後に評価。

### 7. 主な結果

鍼通電群 10 名 (男性 7・女性 3、平均 24.8 歳±6.5(SD))、対照群 10 名 (男性 8・女性 2、平均 28.8 歳±7.7(SD))。VAS の変化は鍼通電群-5.8±22.2 (平均±SD) vs. 対照群 2.6±16.0、Skindex-16 の変化は-1.4±12.4 vs. -3.7±7.8、PO-SCORAD の変化は-2.0±9.9 vs. 1.5±8.2。評価対象としたすべての項目で改善傾向を認めたが、群間での有意差はなかった。角層細胞面積の変化についてのみ群間の比較において鍼通電群に有意な増加が認められた。

### 8. 結論・意義

100 Hz の鍼通電刺激は、免疫学的側面よりも非免疫学的側面である皮膚のターンオーバーに影響を与える可能性が考えられた。

### 9. 鍼灸医学的言及

手三里と上巨虚は、AD に用いられる曲池と足三里と同じ筋およびデルマトームに位置するとして選穴。

### 10. 論文中の安全性評価

皮下出血 2 名。

### 11. Abstractor のコメント

臨床症状だけでなく、皮膚の機能・形態の指標に関してもデータ収集し分析している。このデータは貴重だが、長年の AD による痒みに対して週 1 回 15 分の鍼通電で十分な臨床効果および皮膚のターンオーバーへの影響があり得るのだろうか。先行研究の成功例における鍼治療方法、治療頻度、評価のタイミング、アウトカムの群間差の大きさなどを精査し、プロトコルを再検討して再チャレンジすべきと思われる。掻痒感と皮膚炎については、変化量平均で鍼通電群と対照群の変化の方向性が異なるので、サンプルサイズが大きければ有意差が見られるのかもしれない。

### 12. Abstractor and date

山下 仁 2022.3.9